

ウォーキング

根尾の薄墨さくら鑑賞

令和6年4月5日（金）

1. ルート 近鉄桑名駅⇄養老線大垣駅⇄樽見鉄道樽見駅～根尾の薄墨さくら～樽見駅⇄桑名駅
4.0km（7,000歩）
2. 参加者 伊橋健治・喜吉 雄・谷口文夫・中村 衛・中村軍志・福本 泉・濱田 一
7名
3. ドキュメント



午前8時30分桑名駅に集合。8時45分の養老鉄道大垣行きに乗車、そして大垣から樽見鉄道樽見行きに乗り換える。出発時点から列車は満席で通勤電車以上の混雑でつり革にも届かないほどの込みようであった。これみんな花見客かと思われ覚悟の乗車となる。途中、イベント会場で少しの降車者があったのでつり革だけは確保できた。一方車窓はソメイヨシノ・ヤマザクラ・淡墨桜など満開でさくらを十分に堪能できたのであった。11時過ぎ、樽見駅に降り立つと駅の周りも桜いっぱい、本舗淡墨桜の孫木が駅前に育っていた。樽見駅の駅長さんとお話することが出来た、曰く駅長さん「年中このように人が訪ねてくれると嬉しいのですが桜の時期だけなので・・・」

電車の疲れ？を癒して薄墨公園に向けて歩き始める。



樽見駅前のモニュメント



駅前広場の淡墨桜3代目



揖斐川の上流部根尾川



岐阜と石川県の境に聳える白山連峰

水のきれいな根尾川に架かる岸を渡って桜公園に向かう道は急坂で息を切らせて歩くはめとなる。公園の周りには相当大きな駐車場が多くあるものの車で来場した人たちは何キロかの渋滞に巻き込まれているようだ。電車で来ても車で来ても同じような苦痛を味わって桜見物をするのである。淡墨桜の傍に到達するとそれは見事な容姿をした🌸だ。

岐阜県本巣市根尾の薄墨さくら
エドヒガンザクラの品種であり国の天然記念物で高さ17.3m、幹回り9.4m 樹齢1500年以上とされ、日本三大桜の一つに数えられている。
一時は瀕死の状態であったが倒木の防止や根本への立ち入りを禁止するなどの処置により樹勢を保ち毎年花見客を楽しませている。



老木らしく枝支えで痛々しい



淡墨桜(右が天然記念物の老木・左がその子桜)

見事な桜に満足し、公園内を一回りして歩数を増やすも何時もの距離には達することはない。公園内は飲酒禁止とのことで30分ほどの桜見物で公園を離れて駅近くの白髭神社の境内にシートを敷いてささやかな酒宴を楽しむ。

みなさん元気印の象徴だけあって話題も豊富であつと言う間に時間が過ぎる。



樽見駅に戻り14時16分の電車に乗り込み大垣駅に向かって帰路に就く。朝とは違い座席に座ることが出来て幸いであった。